

こすもスマイル 13号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和7年4月

～病院長のあいさつ～



新年度を迎えるにあたり、ごあいさつ申し上げます。常日頃からの当院の医療に対するご理解とご協力に感謝いたします。

昨年末から年始にかけて新型コロナ感染およびインフルエンザが流行しましたが、通常の医療業務には支障がなく対応できました。引き続き、感染症に対しての予防には努めなければならないと考えています。

当院は、当地域の手術、救急を含めた急性期医療を主に担っています。2024年1年間の手術件数(消化器外科・腫瘍外科、泌尿器科、整形外科)は562件で、前年より約20件増、また救急車の受け入れ件数は、896件で、ほぼ横ばいでした。この実績をどう評価するかは、地域住民の皆様、そして周囲の医療機関の方々ですが、我々としてはさらなる努力をすべきであると考えています。

当地域の医師不足は問題となっており、当院でも長年の内科常勤医不在に関しては、解決されておらずご迷惑おかけしています。当院は入院医療を中心として、周囲の医療機関の先生方にはかかりつけ医としてご協力、ご支援をいただいています。急性期、回復期、慢性期、また入院、外来、在宅医療など医療提供の形は違いますが、医療機関として、それぞれで充実した安全な医療を住民の皆様提供しなければなりません。医療体制を明確化し、医師の働く環境をさらに整えることも医師確保につながるのではないかと考えております。

患者さんとそのご家族のご協力もあり、当院には多くの研修医、実習生の派遣が継続されています。感謝申し上げます。医療は日進月歩ですので研修施設として評価されるように医療知識、技術の習得に努力しなければならないと考えています。

2025年度もよろしくお願いいたします。

小林市立病院 病院長 徳田 浩喜

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



4 階病棟紹介

地域包括ケア病棟は、急性期の治療が終了して症状が安定し、自宅や施設への退院を目指す患者さんを対象にした病棟です。また、在宅で介護・医療を受けている患者さんのご家族や介護者の休養を目的とした、一時的な入院（レスパイト入院）なども受け入れています。

私たちは、患者さんの在宅復帰に向け、主治医をはじめ、薬剤師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士と協働し、日常生活動作（ADL）の向上を目指します。退院後の生活スタイルを見極め、患者さんの状態に合わせて、在宅復帰に向けた準備を進めていきます。退院支援カンファレンスにはご家族も参加していただき、社会福祉や介護サービスなど生活環境を整え、安心して退院できるようチーム一丸となって支援しています。



2024年7月に、小林市立病院訪問看護ステーションが新設され、在宅ケアのサポート体制が整いました。終末期の患者さんは、ご家族のご意向も確認しながら外泊や外出の計画を立て、外泊中に訪問看護を受けることができます。そして、住み慣れた自宅で安心してご家族との時間を過ごすことができます。また、入院中はプライマリーナース（受け持ち看護師）が主体となり、痛みを和らげる身体的なケアや、心穏やかに過ごせるよう精神的なサポートも行います。これからも、患者さん・ご家族の思いに寄り添ったケアを行うため、笑顔と思いやりで切れ目のない看護の提供に努めていきます。

4階病棟主任看護師：四元 瑞恵



栄養情報便り

臨床栄養室



その不調、ビタミン不足かも・・・

ビタミン類は、体の調子を整える役割があります。

3大栄養素である、たんぱく質・脂質・炭水化物を体に取り込みやすくしてくれるのです！

症状	不足しているビタミン	含む食品
疲れやすい やる気が出ない	ビタミンB1	豚肉 大豆 玄米
吹き出物 肌の乾燥	ビタミンC	緑黄色野菜 果物
夜見えにくい	ビタミンA	にんじん レバー うなぎ
味覚の低下 めまい 肩こり	葉酸 ビタミンB12	レバー ほうれん草 アボカド 乾燥わかめ

3～5月は、寒暖差もあり、体の不調が出やすい季節です。
不足しているビタミンを取り入れて、体の不調を取り除いていきましょう！

地域医療連携室紹介

今回は、入退院調整看護師の役割について紹介します。

入退院調整看護師とは、患者さんが安心して入院生活をおくり、退院後も住み慣れた地域で生活できるように支援を行う看護師です。病院内外の専門職と連携し、患者さんやご家族のニーズに合わせて地域の社会資源や福祉サービス、制度等を最大限に利用出来るように関係機関へ橋渡しをする役割を担っています。

構成要員は4名で、各病棟と外来部門に配置され活動しています。具体的には、入院時にご本人、ご家族と面談を行い身体的、社会的、心理的問題を把握し、退院を見据えて入院前から支援が必要かを確認しています。患者さんの状況に応じて各医療チームや外部関係機関の専門職と連携し、転院や施設入所、在宅退院等の転帰先に応じて必要な介入を行っています。

当院を利用する患者さんが安心して入退院できるよう、入院生活・退院に向けての不安などの相談に随時対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

入退院調整看護師 一同



**西諸華道連盟の皆様、
いつも素敵なお花をありがとうございます。**



スタッフのひとこと

新年度に入り、新しい環境が始まる方も多いのではないのでしょうか。

ふと、自分が今の職場で働いている年数を確認すると12年目に突入する年でした。12年前の4月にドキドキしながら職場に来たことを思い出しました。新人の頃の気持ちを思い返して、また気持ち新たに業務に取り組んでいこうと思います。

皆さんも自分が新人だった頃を思い返してみるのはいかがでしょうか。

医療ソーシャルワーカー 時任由紀奈

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp